

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

倉敷市玉島黒崎の港で、江戸、明治期に使われていた「舟だんす」を使った実験が行われました。記事を読み、質問に答えましょう。

舟だんす、本当に浮きました。江戸、明治期に北海道と本州の交易を支えた北前船で貴重品の保管に使われた「舟だんす」が、言い伝え通り、船が沈んでも浮かぶのかを検証する実験が28日、倉敷市玉島黒崎の港であり、伝承が証明された。

同市玉島地区を拠点に、学校や公民館講座で地元の歴史を紹介しているNPO法人備中玉島観光ガイド協会が企画。舟だんすは高さ45センチ、幅39センチ、奥行き48センチ、重さ21キロで、北前船で実際に使われていたとされる良寛会館（同市

舟だんす 本当に浮いた

玉島のNPO 海で実験



海に投げ入れられ、浮かぶ舟だんす

少し水入るも“成功”

玉島中央町の所蔵品を借り、中身は入れずに空で行った。漁協の船着き場に集合。「いち、

にの、さん」でロープを結んだ舟だんすを海に投げ入れると、水しぶきが上がり、ぷかぷかと浮かんだ。10分後に引き上げた舟だんすの中には多少の海水が入っていたが、検証は「成功」と判定した。

同協会の西廣行理事長(80)は「紙を入れるとベトベトになるが、船の沈没を知らせたり、大切な印鑑を守ったりといういろいろな用途が考えられる。これを機に北前船頭彰の機運をより高めたい」と話した。

(西平亮)

さんデジに
動画



3月29日付、山陽新聞全県版

Q1 ★★☆☆

「舟だんす」は江戸、明治期に、どんな船で使われていましたか。第1段落を読み答えましょう。

Q2 ★★☆☆

舟だんすには「船が沈んでも浮かぶ」という言い伝えがあります。NPO法人備中玉島観光ガイド協会は、どのような方法で実験をしましたか。結果はどうでしたか。

Q3 ★★★★★

実験の結果を受けて、協会では「舟だんす」がどのような目的で使われていたと考えましたか。皆さんは、どう思いますか。

★の数は問題の難易度を表しています。



舟だんすについての記事は3月24日付おからプラスやさんデジでも見られるよ。参考にしてね。